

看護大学 だより

#14

新しい学び・人・キャンパス
福岡看護大学の魅力を
ご紹介します!



Well-being について、世界保健機関(WHO)憲章には、「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態(well-being)にあることをいう」と有ります。本学は教育の大きな柱として、看護の対象となる方々を、病気を「診る」医療の視点だけではなく、どのような状態であつても人生を生きる一人の個人として「見る」視点をもち、患者さんの個性に応じた最適な生活「well-being」への支援ができる看護専門職の育成を掲げています。

Well-beingに係る学修内容については、「1年次には講義科目『well-being』で概念について学修し、2年次には演習科目『well-being care』の中で、看護専門職として対象者をどのように捉えていくのか、その思考過程を学びます。3年次には半年間にわたる臨地実習の中でwell-beingの基本理念に基づいた看護を実践し、総まとめの最終学年では『well-being care 統合』の演習の中で、これまでの臨地実習、そして統合看護学実習で学び得た看護の知識・技術・態度について、振り返り、分析し、課題を明らかにしていきます。このように重層的に、well-beingの概念を貫くカリキュラムが組まれています。」
(飯野英親 学部長談)。

例えば、がんの患者の延命のために苦しい抗がん薬を勧めますが、患者の希望によつては必ずしも苦痛を強いる治療を行うことが最良とは限らないというように、患者がどのような人生を歩みたいかに目を向けることはwell-beingにつながる医療と言えるでしょう。看護の立場では、対象者にとつて何が最適であるのか一緒に考えていく、それを成し得るには信頼関係と心につながるコミュニケーションが大事であり、それがwell-beingにつながつてゆきます。

